



2026年
(令和8年)

9月4日

金曜日

知・技の創造

ものづくり大学発

▷128◁

の流入による活性化」が期待されていること、地域イベントにおける来訪者調査では「伝統が息づくまち」のイメージを持たれていることなど、多くの有意義なデータが得られました。

・データ分析を担い、高大連携の実践的な学びが現場で具現化することにも地域との信頼構築にも寄与していると考えます。

■地域へフィードバック
調査の結果は、鉄道延伸後のまちづくり方針を検討する基礎資料として整理し、大学が店舗を一軒ずつ訪ね、鉄道

また、お祭りやイベントの実行委員会では、多世代の市民と向き合い、地域の文化や歴史を肌で感じながら調査を進めることで、世代や立場を越えた対話が生まれ、地域の未来を共に創造していきま

田尻 要 技能工芸学部 建設学科 教授

高大連携のまちづくり

■岩槻で進める実践的調査
田尻研究室では、さいたま市岩槻区を対象に大学と高校が連携したまちづくりの実践研究を進めています。実学重視を掲げるものづくり大学の大学院生と、地域経済界の発展を支える人材を長年輩出してきた歴史を持つ県立岩槻商業高校の生徒が探究を目的に協働する取り組みです。

②商業関係者③地域イベント来訪者の3者を対象としたフィールド調査を実施して意識の把握や課題の抽出を行いました。

■まちに出よう！
岩槻駅を中心とした幅広いエリアを対象とした住民調査では「地元の商店に関する情

延伸計画が及ぼす経済活性化への期待を丁寧に調査しました。大学院生はフィールド調査の同伴や、調査手法の指導

提案として取りまとめ、地域の課題を将来の視点から捉えて、持続可能な地域の形成に向けた道筋を考えるきっかけ

このように、実学的な取り組みと地域密着型の学びが組み合わさることで、大学や高校の若者たちが地域の課題を自らの言葉で語り、解決策を提案する姿が生まれます。地域社会の構造を理解し課題解決に向けた思考を深める契機となり、地域の未来を担う人材を育成する場となっています。

生と高校生らは、①地域住民商業関係者調査では「若年層



たじり・かなめ 九州大学博士(工学)。総合建設会社、国立群馬工業高等専門学校助教授、ものづくり大学准教授を経て、2013年から現職。コンサルタント委託、自治体連携、審議会委員など実績多数。